

地域医療連携室だより

No.41
2024.01



〔医療法人あかね会 理念〕

いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう

〔土谷総合病院 基本方針〕

1. 急性期医療を提供します
2. 地域医療へ貢献します
3. 患者さん中心の医療を行います
4. 土谷総合病院の職員として、誇りを持って対応します
5. より良い医療を提供し続けるため、健全な病院経営を行います

新年のご挨拶

院長 土谷 治子

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、多くの貴重な症例のご紹介や、当院からの紹介患者の受入に対するご協力に感謝しております。

2023年、当院では病院の組織づくりに力を入れてまいりました。組織図や委員会などを再検討し、病院組織の改新を致しました。これにより、これまでにはっきりと明文化されていなかった事柄も、職員全員が確認できるような仕組みが整い、医療の安全や質の向上につながるものと確信しております。

また、医師の働き方改革への対応や当院の機能強化のために、患者様の逆紹介にも力を注いでまいりました。ただし、進捗はまだ十分ではなく、本年も逆紹介が円滑に進むよう検討を続けて参ります。逆紹介においては、地域の先生方の情報収集が重要ですので、今後も先生方にご協力をお願いすることが多いかと思えます。

2024年は診療報酬改定や医師の働き方改革の影響が未だ読めない状況ですが、地域に根差した良質な医療を提供できるよう、本年も努力してまいります。

変わらぬご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。



産婦人科

副部長 道方 香織

新年明けましておめでとうございます。日頃からご支援いただき、誠にありがとうございます。

産科では、昨今の出生数の減少の影響を受け、分娩数は減少傾向ですが、出産の高年齢化や不妊治療による妊娠の増加を受け、今後はハイリスク妊娠分娩の割合が高くなるものと予想されます。昨年は帝王切開率 30%、緊急帝王切開率 16%で、徐々に増加する傾向にあります。当院では合併症妊娠や妊娠糖尿病などのハイリスク妊娠を外来でご紹介いただいております。また早産、妊娠高血圧症候群などの母体搬送に対応しています。昨年度、搬送件数は55件と増加し、今年度も同程度で推移しており、今後も可能な限り引き受けて参ります。

また、新しい出生前検査認証制度のもと、2022年末に遺伝カウンセリングとNIPTの専門外来を始め、軌道に乗ってきています。検査を希望される方がいらっしゃいましたらご相談ください。

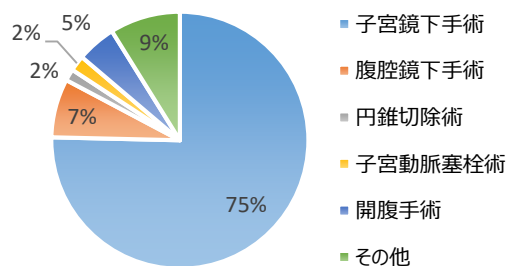
婦人科では、2022年から取り組んでいる子宮鏡下手術が、年間約150例と増加しています。外来での子宮鏡検査も多く行えるようになりました。

これからも地域医療に貢献できるよう、努めて参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。



写真後列左より 吉本医師、鍵元医師、原医師、小出医師
写真前列左より 道方医師、金子医師、土谷医師

婦人科手術内訳



小児科

医長 浦山 耕太郎

平素より各地域の先生方におかれましては、いつも患者さまをご紹介頂き心より感謝申し上げます。現在小児科医3名(浦山、森田、大崎)で、循環器疾患、新生児医療を中心とした診療を行っております。先天性心疾患の他、不整脈、心筋症に関しても、症例に応じて他施設と連携を取りながら、専門性の高い病態にも対応しております。

近年、川崎病の罹患者数は増加傾向とされています。今日でも原因が特定されていない疾患ですが、乳児から幼児期に発症する比較的頻度の高い疾患です。発熱や発疹など小児ではよく遭遇する症状を主体としますが、適切な治療を行っても、後遺症として冠動脈瘤が生じてしまうことがあります。

当院では川崎病後遺症として冠動脈病変を生じた患者さまに対し、MRIを含めた複数のモダリティを用いながら、経時的にフォローアップしております。成人期を迎えられた方も多く、成人科と連携を取りながら、必要に応じて治療も行っております。

川崎病急性期の治療を終えられた後、後遺症の有無やフォローアップに悩まれている症例がありましたら、一度ご紹介頂けましたら幸いです。

今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

内分泌内科

医長 渡邊 浩

新年あけましておめでとうございます。

当科では糖尿病専門医、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、看護師がチームを組んで糖尿病の治療を行っています。このうち18名が日本糖尿病療養指導士の資格を有しています。

糖尿病教育入院後5年間の血糖コントロールに与える効果を検証した国内の研究によれば、全体(180例)のうち、多くは平均HbA1c値が悪化することなく7%台を維持できていました。また、44%の患者は平均HbA1c 6.9%未満に維持できており、体重の増加率やインスリン増加量が少なく、合併症の進行率も低い等良好な経過をたどっています。なお、こうした長期的効果を維持できている患者の多くは、過去に糖尿病治療がなく、罹病期間が短い傾向にあったことも判明しています。

当科が行っている糖尿病教育入院は、1週間の教育入院で日本糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフがそれぞれの専門性を生かし丁寧に説明します。また皮膚科、眼科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、整形外科との連携のもと糖尿病合併症の精査も行っております。教育入院中に、希望されれば、自己血糖測定、インスリン手技も指導しております。

初めて糖尿病と診断され糖尿病の知識がない、内服やインスリンで糖尿病治療を行っているにもかかわらず、食事療法や運動療法が実施できず生活習慣に乱れがあるため、血糖コントロールが不十分、合併症が進行してきている等でお困りでしたら当院での教育入院を勧めて頂ければ幸いです。よろしく願いいたします。



糖尿病教室スタッフ

耳鼻咽喉科

医長 長 陽子

新年あけましておめでとうございます。

当科は中耳炎、難聴、めまいなど耳疾患、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、嗅覚障害など鼻疾患、急性扁桃炎、急性咽喉頭炎、急性喉頭蓋炎といった咽喉頭疾患など耳鼻咽喉科全般の幅広い疾患に対応しております。

また、広島大学病院と提携して年間約50件の内視鏡下副鼻腔手術を3~4日間の短期入院で行っております。

嚥下認定看護師や栄養士と一緒に入院中の患者様の嚥下評価を施行し、嚥下リハビリや食形態の調整なども行っております。

耳鼻科領域の不調を訴える患者様、めまいや急性感染症など入院加療が必要な患者様などおられたらぜひご紹介下さい。よろしく願い致します。

循環器内科

内科診療部長
主任部長
不整脈センター長 村岡 裕司

新年あけましておめでとうございます。昨年も当科に多大なるご支援をいただきまして誠にありがとうございました。

2019年以来我々を苦しめてきたCOVID-19は昨年に感染症法分類5類となり、ウィズコロナへの第一歩を踏み出したように思います。当科としましても、ようやく通常の臨床業務ができるようになりつつあり、早く元の軌道に戻ることができるよう努力しております。当院の強みである虚血性心疾患や不整脈に対するカテーテル治療もコロナ禍と比較して増加傾向にあり、今後さらに迅速に皆様のニーズに対応できるよう努めてまいります。

昨年度より心エコー専門医が赴任し、エコー診療のさらなる発展、弁膜症などの構造的な心疾患に対する治療域の拡大を目指してがんばっております。

準備している心臓リハビリテーション室につきましても、いよいよ稼働に向けて最終段階となっており、急増している心不全という疾患について急性期からリハビリテーションまで包括的に管理ができるよう準備を整えております。

2024年度から医師の働き方改革の新制度が導入されます。我々もこの変化に戦々恐々としながらも、特に救急患者の受け入れなどの対応において地域の医療にご迷惑をおかけしないよう考えを巡らせております。おそらく今後、医療の機能分担もより進んでいくことになろうかと存じますので、皆様とさらなる連携をとらせていただければと考えております。

本年も引き続き、ご支援、ご指導をいただければ幸甚に存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



皮膚科

医長 渡邊 遥

新年明けましておめでとうございます。

当科外来では、湿疹皮膚炎群、蕁麻疹、皮膚腫瘍、外傷、皮膚感染症等幅広く診療を行っております。当院は特に循環器疾患や腎疾患を合併する患者様が多く、下肢虚血や難治性潰瘍の症例を数多く診察しています。下肢虚血に対して血行再建された患者様の創部処置やマイナーアンプテーションも当科で行っています。

木曜日は創傷ケアセンターとして専門外来を行っており、必要時SPP（皮膚組織還流圧）検査での血流評価や陰圧閉鎖療法等も併用し、他科との連携を取りながら診療しております。

手術は主に火曜日午後に行っており、マイナーアンプテーションのほか、一人体制で対応可能な皮膚腫瘍切除等の局所麻酔手術を行っております。

また、原発性局所多汗症に対するボトックス治療も引き続き行っております。多汗症に対する外用療法を選択肢も増えつつありますが、ボトックス注射は1回の施術で高い効果が期待でき、4~7か月効果が持続するというメリットがあります。多汗症でお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

総合病院の皮膚科として、微力ながら地域医療に貢献できるよう、努力してまいります。本年もご支援ご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

心臓血管外科

主任部長 山田 和紀

新年、明けましておめでとうございます。

まだ終息とはいえないもののコロナ禍もかなり落ち着いてきて、先生方も久々に「普通の」新年をお迎えになられたことと存じます。

先生方の多大なご支援のお陰をもちまして、昨年も300件以上の手術をこなすことができました。篤く御礼申し上げます。

当科では、心臓血管外科で扱う①弁膜疾患、②虚血性心疾患、③大血管疾患（胸部・腹部）、④先天性心疾患、⑤末梢血管疾患の全てに対応しております。

最近では特にMICS（Minimal invasive cardiac surgery; 低侵襲心臓手術）に力を入れております。胸腔鏡補助下での小切開からの弁膜症などの心臓手術で、患者さんの肉体的・精神的負担を軽くし、より早期の退院と社会復帰を可能とします。症例を選んで限定的に行うことから始めて、これまで適応を徐々に拡大してまいりました。

その結果、昨年は11月21日の時点で71例の弁膜症手術（TAVIを除く）のうち30例をMICSで行いました。今後もさらに適応を拡大するとともに、手術時間の短縮などにも努めていく所存です。

麻酔科や手術室との連携の下、複数の手術の同時進行が可能な体制が取れており、緊急手術などの紹介についても全てに対応できるよう努めてまいりますので、今年も昨年に増してご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



MICSの手術創

消化器内科

医長 田中 友隆

新年明けましておめでとうございます。平素より患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。Covid19感染症も5類に変更になり、少しずつ以前の日常が戻っていると思われま

す。消化器内科は一昨年導入した新型オリンパス内視鏡システム（EVIS XI）と経鼻内視鏡（GIF-1200N）が好評で徐々に内視鏡件数が増えています。

さらに2023年10月より土谷総合病院のホームページから上部消化管内視鏡検査がWeb予約できるようになりました。

さて、昨年の地域連携室だより（新年号）でご報告したと思いますが、外来患者さんが快適に大腸内視鏡検査前処置を行うための個室スペースを院内に確保することが決まり、現在準備中です。完成次第、地域連携室だよりでお知らせいたします。

本年もより一層感染症に注意を払いながら、気持ちも新たにスタッフ一同全力で取り組んでいく所存です。

今年も昨年以上にご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。



写真左より 石丸医師、西村医師、荒滝医師、田中医師

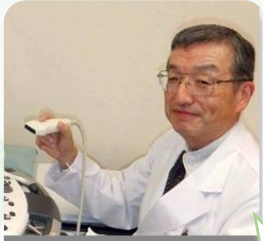
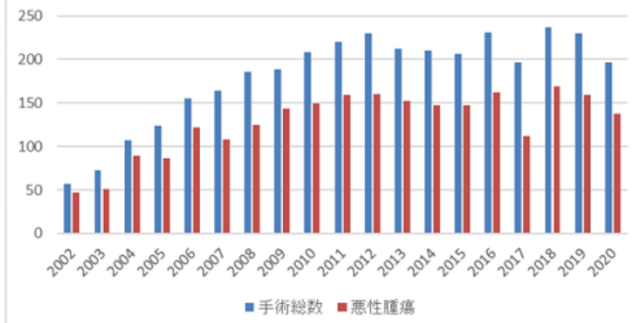
外科

新年にあたりご挨拶を申し上げますとともに、スタッフ紹介をさせていただきます。

年間手術症例は総数約350件で、そのうち甲状腺手術が約200件で最も多くを占め、その他は消化器がんや胆石症・ヘルニアの手術を主に行っています。

地域に根ざす中規模病院として患者さん中心の医療をチーム一丸となって努力し推し進めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

甲状腺手術の件数



副院長・外科診療部長
杉野 圭三

甲状腺手術に携わり約30年が経過しました。近年、進行癌治療では分子標的薬の進歩で格段に治療成績が向上してきました。しかし、進行甲状腺癌治療は根治性追求とQOL維持という困難な矛盾の中でも、やはり手術治療が第一選択あること変わりなく、常に手術手技向上を目指すのは外科医の義務であり矜持です。簡単と思われやすい「甲状腺片葉切除、D1郭清」も完全な手術遂行は至難の技です。小生も古希を迎えましたが、未だ100%完全で洗練された手術を行うに至っていません。まだまだ「日暮れて道遠し」と感じています。

(蛇足ながら、2021年より尊敬する清少納言女史にあやかり、病院ホームページに『甲状腺外科草子』なる随想を掲載中、2023年11月までに84話となっています。個人的見解の駄文で恐縮ですが、時間にゆとりがあれば御一読戴ければ幸甚に存じます)

土谷総合病院に着任し20年が経過しました。主に消化器の手術を担当しています。遠視(老眼)で遠近両用眼鏡を掛けていますが、腹腔鏡による手術はスコープの拡大視効果の恩恵で、ルーペを装着して開腹で行う手術よりも眼の疲れは遙かに少ないと感謝しています。さらにロボット支援手術にも関心を持っているこの頃です。



外科主任部長・診療補助部長 西原 雅浩



副部長 川崎 由香里

エコーやCTなどの画像診断検査で、偶然甲状腺腫瘍を発見される症例が多く見られます。最近では微小であれば精査自体行わない、微小であれば癌でも手術を行わない、などの積極的経過観察も広く言われていますが、判断に迷う症例も多いと感じています。お困りの症例がございましたらお気軽にご相談ください。

土谷総合病院に赴任して2年目になりました。甲状腺疾患、消化器疾患、救急疾患に広く携わっています。私事で恐縮ですが、最近趣味のランニングに加えまして、某全国展開の大手ジムでのchocoっと筋トレにはまっています(スキマ時間での1回あたり2-3分のスピード利用ですが)。早稲田大学の研究によると週30分の筋トレは癌予防効果があるみたいです。ただし週130分を超えると逆にマイナスの効果になることもわかっているみたいです。『過ぎたるは猶~』の言葉通り、何事もほどほどがよいのでしょうか。仕事においては妥協することなく外科医として日々精進して参りたいと思います。よろしくお願いします。



医長 佐藤 幸毅



整形外科

部長 蜂須賀 裕己

明けましておめでとうございます。

いつも貴重な症例をご紹介下さいます各病院、クリニックの先生方には御礼申し上げます。

当科の伝統である手外科・肘関節外科分野では救急外傷や難治症例を紹介して頂き、誠にありがとうございます。微小血管・神経縫合手技による特殊な上肢の再建手術や、指・肘の人工関節手術も増加して参りました。微小外科(マイクロサージャリー)の分野では先端的な治療を行っており、昨年は学会賞を受賞したり講演の依頼を頂いたりすることがありました。大変名誉なことではありますが、出張不在のためご迷惑をおかけすることとなり誠に申し訳ありません。しかし、これからも世界レベルの手外科・微小外科手術を患者さんに提供し、地域医療に貢献させて頂きたく存じます。

膝・足関節外科の専門外来では奥原医長が高度な下肢外傷、膝関節・足関節外科の診療を行っています。変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術はもちろん、出来るだけ自分の体・関節を温存したいという患者さんに対しては単顆型人工膝関節置換術、脛骨骨切り術などの骨温存術も行っています。また、スポーツ愛好者に多い靭帯・半月損傷に対しては関節鏡を使って治療しています。

上下肢の外傷、スポーツ障害、神経障害、関節リウマチ、先天性疾患、加齢性変性疾患、造形手術、難治性偽関節手術、機能再建手術に積極的に対応していきます。何卒ご紹介のほどよろしくお願致します。

救急・緊急手術や、心臓・腎疾患既往のある整形外傷、整形外科手術後のリハビリテーション入院の患者さんも積極的に受け入れる努力を行っています。スタッフ数の問題で受け入れや受診が滞ることもあり、誠に御迷惑をおかけして申し訳ありません。引き続き鋭意努力して参りますので、是非ご相談下さい。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



写真左より 蜂須賀医師、木森医師、奥原医師

呼吸器内科

医長 餘家 浩樹

新年あけましておめでとうございます。

当科は呼吸器感染症、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など扱う疾患は非常に幅広く、病因も多岐にわたるため非常に知識や経験を要する領域です。特に循環器系疾患や腎疾患を合併症として有する患者さんが多く、投薬のみでコントロールできるような軽症例から在宅酸素や在宅NPPVを必要とする症例まで多数の患者さんを診療させていただいております。呼吸器感染症例も外来では急性上気道炎などの軽症例から、入院では重症肺炎まで診断治療しております。総合病院における呼吸器内科として他科との連携をしながら地域の医療に貢献できますよう頑張っていきます。

一方、当科では現在一人体制で診療を行っておりますので、気管支鏡、肺生検が必要な肺癌症例や、画像診断で肺癌が疑われる場合は、近隣の呼吸器内科・外科診療が可能な施設へ紹介をさせていただいております。昨年も多数の症例を受けていただき大変助かっております。

今後ともよろしくお願いいたします。

腎・血液浄化療法科

主任部長 新宅 究典

新年あけましておめでとうございます。

当科では、如何なる腎不全、臓器不全にも対応するという基本方針の下①早期腎疾患および保存期腎不全患者の治療②慢性腎不全患者の血液透析療法の導入とその合併症の治療③慢性腎不全患者の腹膜透析療法の導入とその合併症の治療④急性腎不全患者の薬物治療と急性血液浄化療法⑤透析バスキュラーアクセス治療の5つの柱で治療を展開しております。

これらの治療を行うために、外科医、腎臓内科医が協働して診療に当たっております。

1. 早期腎疾患治療

尿異常や血液検査での血清クレアチニン値の異常があれば、血液検査、尿検査に加えて、必要に応じて腎生検を行い、その結果と診断に基づいた治療を行います。

2. 保存期腎不全(慢性腎臓病:CKD)治療

慢性腎不全は、適切な治療によって末期腎不全にいたる時期を遅らせることができます。具体的には、原疾患の治療、薬物療法、栄養指導、生活指導を行います。

加えて、腎不全による症状に対する治療を行います。また、腎臓病教室を開催し、患者教育に力を入れています。

3. 末期腎不全治療

当院では、血液透析と腹膜透析の両者を行っています。

腎代替療法選択外来を受けていただき、自分に最も合った治療を選択していただけます。

血液透析療法:血液透析は、週3回・1回3~5時間の透析を受けていただけます。医学的条件だけでなく、ライフスタイルや年齢、性格等も考慮し、夜間透析や在宅血液透析も行っています。

腹膜透析療法:腹膜透析では、透析液のバック交換を自宅や職場で行います。日中の交換をなくし、夜間就寝中に機械を使って透析液の交換を行うシステムもあり、透析療法と社会生活の両立が可能となります。

4. 急性腎障害(AKI)治療

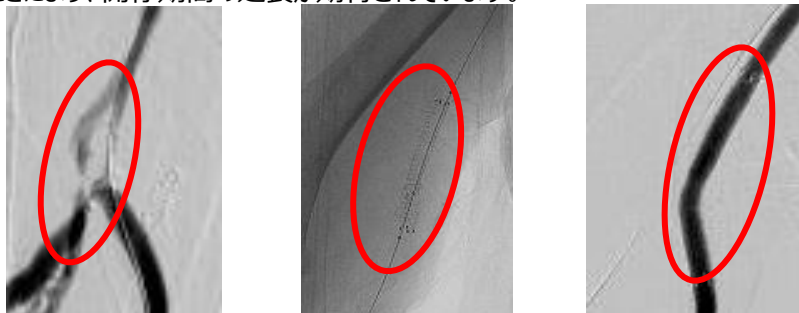
薬物療法や点滴治療を行い、腎機能を回復させます。これらの治療で改善が見込めない場合や重篤な状態の場合には、集中治療室(ICU)で持続的血液浄化療法を行います。当院は、24時間治療可能な体制となっています。

5. 透析バスキュラーアクセス治療

当科では、バスキュラーアクセス作製・治療外来を開設し、バスキュラーアクセスの作製および合併症に対する手術、経皮的血管形成術(シャントPTA)を行っており、薬剤溶出性バルーンやステントグラフト等の新規デバイスも積極的に導入しております。(図参照)

ステントグラフト

人工血管内シャントの静脈側吻合部における狭窄または閉塞の治療に用いることにより、開存期間の延長が期待されています。



人工血管静脈側吻合部から狭窄部をバルーンカテーテルにて挿入後の造影、エコーで良好吻合部流出路の狭窄。拡張後、ステントグラフトを挿入。良好な血流を確認できました。

6. 下肢末梢血管疾患治療

放射線科、血管外科、皮膚科と連携し、積極的に透析患者の下肢末梢血管疾患(下肢閉塞性動脈硬化症)の治療(経皮的四肢血管拡張術等)を行っています。

7. 連携医療

土谷総合病院では、上記のCKD、AKI治療に対する入院加療を主にを行い、外来維持透析療法は、中島土谷クリニックもしくは大町土谷クリニックで行っています。

また、長期療養が必要な方は阿品土谷病院で入院加療させていただきます。